



米沢市報道資料

米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）のパブリック・コメントの結果の公表について

令和6年6月17日

政策企画課経営政策担当
電話 22-5111（内線 2706）

本市では、米沢市行政経営市民会議での審議を中心に、米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）の策定を進めております。このたび、下記のとおりパブリック・コメントの結果を公表することになりましたので情報提供いたします。

記

1 施策案の名称

- ・米沢市人口ビジョン（案）
- ・米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）

2 公表期間

令和6年6月17日（月）～令和7年6月16日（月）

3 送付資料

米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）に係るパブリック・コメントの結果

4 施策案の閲覧場所

市ホームページ、市役所政策企画課（3階）、市民ホール（1階）、市内各コミュニティセンター

5 問合せ先

〒992-8501 米沢市金池 5-2-25 米沢市政策企画課

電話番号 0238-22-5111 FAX 0238-22-0498

電子メール seisaku-ka@city.yonezawa.yamagata.jp

米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）に係るパブリック・コメントの結果

1 募集対象計画等

米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）

2 募集期間

令和6年5月1日(水)～令和6年5月20日(月)

3 意見の提出者数及び件数

提出者数 3者／提出件数 14件

（内訳）米沢市人口ビジョン（案）に対する意見 4件

米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）に対する意見 8件

その他全体に対する意見 2件

4 意見の内容及び意見に対する回答

次ページ以降に記載しています。

米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）に対する

パブリック・コメントへの回答について

1 米沢市人口ビジョン（案）に対する意見

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
1-1	米沢市人口ビジョン（案） 2 米沢市の人口分析 (4) 人口動態	9 頁	人口ビジョンとは過去の推移や世界や国、近隣自治体の動向から将来を見通し、それを元により良き方向を模索しそこに至る方策を探すものと理解しておりますが、今回の資料を見ると過去のデータばかりで、今後の予測がない事が非常に検討不足に感じます。すべてのデータで予測はできませんが、これまでの挙動の延長では「こうなる」と予測した上で方策を検討するのが良いはずです。 なお、細かい点ですが年齢別の人口増減データがあり、大学生年代の所が大きく増減しておりますが、その挙動の要因は明確なのに説明がなく、他の年齢の動きが見づらいため、他の年齢とは切り離してまとめるべきと考えます。そうしないと他の年齢区分の動きが見えないと思います。	「今後の予測」については、36 頁に「米沢市の将来人口の見通し」として整理しております。転入・転出や合計特殊出生率などの過去から現在までの各種データごとに将来の挙動を具体的に推計することは困難であることから、本市人口ビジョンにおいては、合計特殊出生率や移動率を仮定した推計として国立社会保障・人口問題研究所が公表した将来推計人口（令和 32 年（2050 年）に 53,112 人）を掲載しているほか、同研究所が作成し国から提供された人口推計用ワークシートを用いて、出生や死亡、移動に関する仮定を用いた将来推計人口を独自試算し、人口減少がもたらす影響や課題、解決に向けた方向性を整理したものです。 ご意見をいただいた「(4) ④性別・年齢階級別人口移動の長期的動向」における、男性の「20～24 歳→25～29 歳」、女性の「10～14 歳→15～19 歳」の転入超過が大きい要因として、男性は山形大学工学部の学生が本市に履修拠点を移動する影響が大きく、女性は米沢女子短期大学や米沢栄養大学の入学による影響が大きいと考察しています。また、男性の「20～24 歳→25～29 歳」、女性の「15～19 歳→20～24 歳」、「20～24 歳→25～29 歳」で転出超過が大きい要因は、短	有

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				大、大学、大学院を卒業し就職する機会が本市から転出するためと考えております。 なお、10 頁に記載している国勢調査毎の年齢階層別の人数の変化において上述の要因を記載しております。 また、本市の人口移動の大きな要因が若年層の転出入であるということを把握するために掲載しているグラフであることから、ビジョン本編において若年層の転出入を切り離した他の年齢分析はいたしません が、ご意見を踏まえ、資料編に「性別・年齢別人口移動の長期的動向」として表を追加いたします。	
1-2	米沢市人口ビジョン（案） 3 市民等の意識調査	19 頁	市民の意向調査としてアンケートを2種取られていました。そのうち(1)市民・学生・転出者アンケート調査は膨大な2,152件の回答情報をうまくまとめて趨勢の把握が分かり易いと感じました。その調査を受けた(2)市民・学生・転出者アンケート調査による課題の整理については、総論的になりやや漠然としてますが、方向が示されて良いと思います。 一方で、(3)「米沢 100 人女子会」でのアンケート調査結果においては 88 件のデータでまとめの労力は割けなかったかもしれませんが、アンケート結果の図表の説明が手抜きに感じました。回答の5分類(5 とても思う 4 そう思う 3 どちらでもない 2 あまり思わない 1 思わない)の言葉を端折り、評価1～5で代用した図表は理解に時間がかかるものでした。単純に回答の言葉を使うか、さらに短縮して(強く肯定、やや肯定、中立、やや否定、否定)と短くする方が分かり易いはずで。また、記述回答	米沢 100 人女子会は、男女共同参画社会を実現するため、米沢に住む女性同士が気軽に話せる場として開催し、講演や女性同士のフリートークを行ったものです。その際に参加者へアンケート調査を実施し、イベントの満足度や女性の社会参画に対する意識、まちづくり全般へのご意見を伺いました。ご指摘いただいた31～34 頁のグラフ及び表が分かりづらい点につきましては、5 分類の詳細を記載するよう修正いたします。 アンケート調査の取りまとめ方についていただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。	有

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
			の中身は設問毎にリスト化した表にすると、対応策を考案する上で生の意見資料になると思います。		
1-3	米沢市人口ビジョン（案） 4 米沢市の将来人口の見通し	36 頁	4 米沢市の将来人口の見通しの項において今後取り組む方策とその改善効果が見積もられていましたが、その中身や効果の実現性が示されておらず、重要なファクターながら簡単にまとめ過ぎと感じました。詳しい解説が加わると良いです。	本人口ビジョンは、地方版総合戦略（デジタル田園都市構想総合戦略）を策定するにあたり、本市人口の現状を分析することで、市民と人口の現状に対する認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示することを策定の目的としております。 ご意見をいただいた将来の人口シミュレーションは合計特殊出生率の上昇と社会増減が段階的に改善される推計条件のもと独自試算をしたものです。 今後取り組む具体的方策については、米沢市デジタル田園都市構想総合戦略で掲げる施策を推進することで改善されるものと見込んでおり、その効果については、米沢市デジタル田園都市構想総合戦略掲載事業の毎年度の評価を行いながら、必要に応じて随時見直しを進めていくこととしています。	無
1-4	米沢市人口ビジョン（案） 4 米沢市の将来人口の見通し	37 頁	本編の 37 頁の上段の 3 つのグラフは横棒グラフが色を変えて示されていましたが、グラフ毎に色を変える必要はあまりなくて、15-64 歳の生産年齢人口の部分をグラフ内で色分ける形にするのが良いと思います。同じ所の左のグラフの実績部分は 20-29 歳の大学生による変動部分が右のグラフでは小幅の変化に表示されていました。それは大学生が減ることを意味するのでしょうか。方策による変動を緩和できるのでしょうか。そこは検討が甘いのではないかという印象です。	ご意見をいただいた棒グラフは、令和 2 年国勢調査における人口構造が、2065 年（令和 47 年）の人口推計シミュレーションでどのような変化をするのかを示したグラフであり、36 頁の米沢市独自推計③と④で試算したシミュレーションの人口構造を表したものであることからそのグラフと同色としたものです。 ご意見を受け、生産年齢人口と年少人口、老年人口の人数及び割合をグラフ上で判別できるよう網掛け等で区別化を行います。 また、人口推計は出生や死亡、移動に関する仮定を	有

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				設定し、シミュレーションしたものです。独自推計④においては全年齢区分における移動が 2040 年までに均衡(転入と転出が同数)となる条件で推計したため、20～29 歳の転出入の変動が小幅になっています。 今回のシミュレーションは、人口減少の要因を少子化と人口流出と捉え、合計特殊出生率を上昇させ、全年齢における移動が均衡する場合の将来人口の見通しを推計してものであり、年齢区分ごとに将来の人口移動の条件を変えた検討を行ったものではありませんので、ご理解ください。	

2 米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）に対する意見

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の有無
2-1	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 「基本目標1」 1-1 先端技術産業をはじめとする本市の強みを活かした産業の集積 「基本目標2」 2-2 多彩な地域資源を活かした観光戦略の推進による交流人口の拡大	6 頁 13 頁	基本目標1：デジタル田園都市構想の中で、教育・人の育成・先端技術などが軸のひとつですが、例えば山形大学工学部の研究費は年々減少しています。そこに魅力的な頭脳が入ってくるのでしょうか。市が主体となって研究費の助成を行う（市が寄附講座を開く）とかスポンサー企業を開拓するなど具体的な施策を考えてほしいと思います。KPIは研究数や特許の数。教育は近隣の地域との連携も効果的で、例えば飯豊の電動モビリティシステム専門職大学の首都圏との中継拠点としての米沢といったような連携やグローバルな企業と先端技術でのエコシステムを構築するなど、行政主体で動けることがたくさんあります。グローバルなエコシステムの1拠点にすることなども魅力的です。 観光分野・インバウンドは一過性のものであり、リピートに結びつく事は多くなく、観光インバウンドと言う意味で言えば、米沢の競争力・山形県の競争力は日本全体で考えれば決して強いものではなく資源をかける割には持続性や利益の大きなものではないと考えます。	先端技術産業をはじめとする産業の集積を発展・進化させるためには、山形大学への研究開発支援とその成果を活用した事業の推進及び地元企業への展開が重要であると認識しております。 山形大学に対する市独自の支援として、公益財団法人山形大学産業研究所に対しての研究奨励金制度があります。本奨励金制度については、大学所属の若手研究者が市内企業と取り組む共同研究等に対して奨励金の支援を行うものであり、その成果は、地域企業の技術開発力の強化に大きく寄与しています。 さらに、本市では、山形大学の研究シーズと市内企業のニーズのマッチング支援を目的に専属のものづくり産学連携支援員を配置し、各種コーディネート事業を展開しておりますが、その中で、山形大学との共同研究に至り、企業からの研究費の獲得に繋がった実績もあります。 また、高等教育機関を核とした近隣地域との連携につきましても、県等関係者と情報交換しながら、地域の先端技術を本市産業の活性化につなげていけるよう、御提案を踏まえて研究してまいります。 観光分野につきましても、国では、令和5年3月に策定した第4次観光立国推進基本計画の中で、観光立国の持続可能な形での復活に向けて観光政策を推進することとし、基本的な方針の一つとして「インバウンド回復戦略」を掲げております。 本市でも、米沢市観光振興計画において、インバウ	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				ンド観光の推進を基本方針の一つに掲げ、具体的な取組を推進しております。インバウンドは、国内の人口減少や少子高齢化に伴い、地域経済が鈍化することが懸念される中で、旅行消費額が高額な外国人観光客の需要を取り込むことにより、地域の活性化が期待できるほか、異文化交流による賑わいの創出や地域の魅力を再認識することにもつながることから、力を入れて推進していく必要があると認識しております。 本市におけるインバウンド事業の取組については、本市の観光振興を担う中核的組織の米沢観光推進機構の戦略に基づき、実行組織であるプラットヨネザワ株式会社が、統計情報をはじめとした現在取得可能なデータに加え、ウェブサイト分析データやアンケートデータを新たに収集・分析しているところであり、一過性のものと捉えず継続的に実施していきたいと考えております。	
2-2	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 「基本目標1」 1-4 安定した雇用と働きやすい環境づくり 「基本目標3」 3-1 結婚・妊娠・出産・子育て	9 頁 17 頁	公的な戦略をまとめるとどうしても総花的になってしまう。二つの意見を述べる。（もう一つの意見は 2-7 に掲載） 一つは残った若者を結婚させることです。（政府は生んだ子どもの支援をすることを主政策としている。市町村も子育て支援の競争をしているようだが、子どもを持つ人が条件のよい隣町に移動するだけで地域トータルでは変わらない（東根市が典型）。こういった支援は市レベルにするとうるくなことはない。統一した国政策とすべきことです。） 政府の内閣府、総務省の白書等の色々なデータをみると、結婚した人の出生率は下がっていない。結婚すれば子	ご意見のとおり、若者が結婚しない理由として「経済的な不安」が常に上位項目にあがっております。そのため、本市では、年間合計所得金額が 500 万円未満で 39 歳以下の新婚夫婦が本市で新生活を始めるための住居費用等の一部を最大 60 万円まで補助する結婚新生活支援制度を設け、結婚を希望する若者の経済的不安軽減を図る取組を進めております。 また、若者の経済面での安定化を図るためには、安定した雇用と働きやすい環境づくりが重要であると認識しております。ご意見にあります正社員採用へのインセンティブへの働きかけに関しては、本市独自の	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
	てに切れ目のない支援		どもを生む。つまり如何に結婚させるかである。 結婚しない理由を見ると一番は経済面です。2000 年あたりからの日本政府の新自由主義経済の推進で、若者は派遣社員ばかり増えていて賃金が上がっていない。経営者は競争もあるが楽な経営をしてしまっている。(正社員を育てようとしていない) 1. 企業への正社員採用へ強い後押し、正社員採用へのインセンティブを大きくしてほしい。 2. 安易に正規社員を派遣社員に置き換えたり、希望退職の名を借りた退職勧奨する会社には強い態度で臨んでもらいたい。(労働基準監督署など、) 3. まずは市役所から非正規公務員を少なくしてほしい。 (基準があるのはわかっているが、地方自治体からまず模範を示してほしい)	取組は現在ございませんが、国では、要件に該当する人材の雇用や、非正規雇者のキャリアアップにつながる措置に対し、各種助成金制度を設けております。今後も、企業に対しては、所管であります公共職業安定所をはじめとした国や県、地域産業団体等と連携しながら雇用に関する情報の周知に努めるとともに、人材の育成と、地元定着に向けた各種事業に取り組むことで、安定した雇用と働きやすい環境づくりを目指してまいります。 次に、非正規公務員についてですが、一般的に「非正規職員」とは「期間を定めて雇用される職員」と解されていることから、任用期間を一会計年度内と定められている会計年度任用職員についてお答えいたします(なお、会計年度任用職員は地方公務員法上、一般職非常勤職員という身分になり、「非正規」公務員とは位置づけられておりません)。 会計年度任用職員は、突発的な事業や国の施策への対応などのため、適宜判断して任用していくものであり、ここ数年は、マイナンバーカード関係業務、新型コロナウイルスワクチン接種業務等で任用数が増加していましたが、今年度はこれらの業務が一段落したことから令和5年度に比べて微減となる見込みです。また、本市における今年度の会計年度任用職員は中高年・既婚者が多く、若年の未婚者が占める割合は非常に少ないものとなっております。 業務を円滑に遂行するには、再任用職員も含めた多様な任用を組み合わせ対応していく必要があること	

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				から、会計年度任用職員の人数を大きく減少させることは困難ですが、今年度から勤勉手当を支給しており、今後も勤勉手当の支給月数を段階的に引き上げる等、処遇改善を図ってまいります。	
2-3	米沢市デジタル 田園都市構想総 合戦略(案) 「基本目標2」 2-1 移住・定住 の推進 2-2 多彩な地域 資源を活かした 観光戦略の推進 による交流人口 の拡大	12 頁 13 頁	基本目標2：移住定住については、人口の増加よりも知見や先端技術研究だけ来てくれれば良いので、首都圏でのイベントや移住者の交流などの事業は必要ないでしょう。 一次産業については国策との連動と地域の特性との組み合わせが必要ですが、例えば森林資源やJクレジットなどに目を向けることや農業や林業への参入をしやすく特区や実証実験の支援など、そして硬直した農業委員会や外部団体の改革が必要ですし、そうすれば次世代の農林業をリードするには最適の地域と考えています。 雇用については地道な活動が必要ですが、商工会議所の義務を強化するなどが効果的だと考えます。商工会議所が機能しないならば、商工会議所は要らないと言うような思い切った施策も考えられます。地域の観光資源については、地区への資金の支援だけで十分で、企画・施策から実施まで地域に任せれば充分です。 スポーツやeスポーツの国際大会開催や映画撮影地にして聖地とするようなことも米沢市の地勢をみると良いかもしれません。	知見や先端技術研究者のような方など、各専門性等に特化した方を呼びこむことも、それぞれの専門分野の発展のためには重要なことだと考えておりますが、移住定住の施策は、定住人口の増加だけではなく、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」の増加や観光などに来る「交流人口」の増加にもつながるものであると考えております。首都圏等でのイベントはそうしたきっかけを提供する重要な取組の一つです。また、移住後の不安解消のためには、移住者同士の交流機会の確保が大切であると考えておりますので、移住定住の施策には引き続き取り組んでまいります。 一次産業につきましては、ご意見にありますとおり、温暖化が叫ばれる中、農林業においてもJクレジットなどの環境に配慮した取組に目を向けることが大切になってきております。 本市では、環境への負荷をできる限り低減する農法の一つとして有機農業の拡大に向けた取組を推進しており、近年、新規に就農された方で有機農業に取り組む方もいらっしゃいます。 また、林業においては、目下のところ森林環境譲与税を活用した森林整備を推進する考えですが、林業事業体等のマンパワー不足や市内の木材産業界全体の繋がりの希薄化、森林境界が不明確な地域が多い等の	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				様々な課題を解決する必要があります。そのためにも、まずは市内の林業関係者全体で現状を把握し、どのように解決に導いていくか、そのためのビジョンの策定や目標値の設定が必要と考えています。どのような方法が本市に適しているのかを見極めるためにも、実証実験の支援等も含めて検討を進めてまいります。 本市の特性を生かし、次世代の農林業をリードできる地域となれるよう、いただいたご意見を参考に研究してまいります。 雇用につきましては、地域唯一の地域総合経済団体である米沢商工会議所との連携により、産業人材の地元定着を目的に「米沢市人材確保定着促進事業」を推進しております。地域の高校生・短大生・大学生の地元企業への就職促進と定着に加え、県外の地元出身学生や若年労働者の呼び戻しや移住促進などの事業に取り組みながら、雇用の確保に努めております。 今後も、米沢商工会議所と市が連携しながら、若手人材の流出を抑制し、地域企業が優れた人材を確保できるように、各種施策を積極的に推進してまいります。 映画撮影の聖地につきましては、この度、5月24日より、本市を含む山形県が舞台となっている長編アニメーション映画が公開になっています。アニメは日本が誇るサブカルチャーとして世界から注目されているコンテンツであり、インバウンドの獲得にもつながるものと認識しております。また、アニメに登場するシーンは「アニメ聖地」の対象となることもあり、	

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				多くのファンが訪れることで大きな経済波及効果を生み出すことから、アニメツーリズムを推進していくことは、観光振興に大きく寄与するものと認識しております。 今回公開されたアニメをきっかけに、聖地巡礼観光マップの製作やスタンプラリーの実施など様々な事業を展開し、本市への観光誘客を図っていく予定となっております。また、ロケーションされた映画やドラマを通じて、地域の知名度や地域愛着度を向上させ、観光客の増加に繋げていけるよう施策を展開していきたいと考えております。	
2-4	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 「基本目標2」 2-2 多彩な地域資源を活かした観光戦略の推進による交流人口の拡大	13 頁	P-13「2-2 多彩な地域資源を活かした観光戦略の推進による交流人口の拡大」の項に、「地域資源の磨き上げと新たな資源を発掘」と記載されていますが、観光業者がアイデアを持ってる事案については、収入が自らに還流するために、実現性や具体性があり資金投入をしやすいのかもしれませんが、それ以外に利用されていない観光資源が沢山あるはずです。それらの未利用資源を収益化する取組も追い求めていただくのが良いと思います。 例えば、私が20年ほど前に見つけた「トトロの森」については、何の収益化にもなっていません。とはいえ、実態は現地にいれば分かりますが、季節の良い頃バイクのツーリングの若者やファミリーや友人がちょこちょことその場に来て景観を楽しんでいます。実際に米沢に来てるのですから、市の何かの店で何らかの収益はあるのかもしれませんが、それらが定量化されていないでしょう。定量化しなくても良いのでそれにより収益が上がる仕組みを開	観光産業が主産業である、ないに関わらず、地域にはその土地特有の魅力があります。特に地元の人から見れば普通に見えてしまう地域資源でも、外部の目線で見れば魅力があるモノが数多く存在していると考えています。ただし、これらの魅力はそのままでは人々の旅心を動かしません。旅の目的地として選ばれる観光コンテンツとなるよう、磨き上げていくこと、付加価値を付けていくことが重要になります。 また、地域資源を磨き上げるだけでなく、経験価値を伴う観光コンテンツとして昇華させることで、差別化を図ることができると考えています。地域資源がどれだけ素晴らしい価値があるものだったとしても、それだけでは観光対象としての価値につながるとは限りません。複数の地域資源を組み合わせたり、磨き上げたりすることで、誰もが魅力を感じわざわざ訪れたい観光地・観光対象となるような価値に繋がって	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
			発する取組が欲しいのです。土産一つもできていません。これはあまりにも勿体ない事です。 そのように既存の観光業者の我田引水的な観光振興策だけでなく、未利用の観光資源から収益を上げる観光開発：事業化プロジェクトを進めていくと良いと思います。 もう一つの例は、私が今年になって認識した水窪ダムの水没林の存在です。あのような美しい景観をただ放置するだけでなく、白川ダムや月山湖のように収益化する取組が進んで欲しいものです。そのような観光化されていない観光資源候補を収益化する取組を希望します。	いくものと考えております。本市のDMO事業においては、地域の観光資源の活用と観光業の発展を目的に、会員団体を対象にした支援事業を予定しておりますので、御意見にある未利用の観光資源の掘り起こしに繋げていくとともに持続可能な事業の実施を支援してまいります。	
2-5	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 「基本目標2」 2-2 多彩な地域資源を活かした観光戦略の推進による交流人口の拡大	13 頁	それから、磨き上げ以前に現在の観光資源を「維持」する観点も足りないように感じます。万世町にいくつもある屋外にある歴史遺産は細々ながら観光に寄与しているところがあります。しかし、それらの屋外資源を維持することは関係地区民の無償ボランティアに頼ってきています。そのため若い戦力が増えず関係者が高齢化して維持する事が困難になりつつあります。そういう維持活動を支えるために無償ボランティアではなく、有償として維持活動にかかる人材の確保を行い、持続的な観光資源となる対応の整備を検討していただきたいものです。現状はいろんな形で県や市からの補助を入れて消耗品の購入などは補填できる形もありますが、最大の負担である人への支援ができないのがネックです。 昨年夏は市内の道の脇の雑草が繁茂してひどいところがあり、観光都市をうたう市としては大変残念な事態だと感じました。そういう所にも気を配る、つまり観光業者が直接かかわらない景観資源の維持が実態としてまずく見	本市には豊かな自然や歴史・文化など、他の地域に誇れる様々な観光資源がありますが、それらを保全活用する団体の一部が、高齢化や後継者不足、財源不足などにより、維持管理の面で困難な状況を抱えていることは承知しております。 このような中、本市としては、米沢市版DMOと連携し、歴史的・文化的背景やストーリー性など、その価値を最大限に生かしながら観光資源として磨き上げや掘り起こしを行うことで、観光客にとって魅力ある資源にしていくこと、また、その資源を効果的に情報発信して知名度の向上と、維持管理する団体の活性化につなげていきたいと考えております。 現在のところ、本市及び米沢市版DMOが、観光資源の維持管理に係る経費を直接支援することは考えていないところでありますが、各地域の団体等が維持管理を行っている資源については、観光資源としてだけではなく、歴史や民俗、芸能など多様な側面を併せ	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
			えたという事実を記しておきます。 そこで、そういう屋外での整備作業などを行ってくれる組織としてシルバー人材センターに依頼しようとする、もう人手能力がないため、新たな整備作業を受けられないとして門前払いになるのが実情です。シルバー人材センターの業務は公共用施設や場所の草刈り等の維持整備がかなりの部分を占めてると理解していますが、歴史遺産の整備も公共の目的に合致する事であり、そういう活動については優先的に整備能力を当ててもらうように、取組を変えてもらいたいと思います。また処理能力が足りないのなら同じ人数でも処理量を増やす車輪付き高速の草刈り機などを導入するなど能力向上する取組も期待します。 大半の歴史遺産の保存会においては同様に問題があると推測します。つまり観光業者ではないために自らの収入手段がなく、観光客からの収入がほとんどなく、維持する事が困難になってるのですし、今後ますますそれが悪化する懸念があります。そこを市全体のDMOの取組の一つと考えて期待していましたが、そういう取組は全くないと感じますので、上に意見した次第です。	持っていることから、その分野の関係団体や国、県及び関連部署とも協議をしながら、こういった支援の可能性はあるのか検討してまいります。 あわせて、米沢市版DMOの今後の取組の一つとして、観光資源の情報を一元的に管理する観光情報サイトの構築を予定しているところであり、このサイトを通じて効果的な情報発信をしていくことで、各地域で活動されている団体等の側面支援、ひいては本市全体の歴史・文化の継承や観光資源の保全・保護に寄与していきたいと考えております。 シルバー人材センターについては、定年引き上げの影響もあり、登録対象となる60歳以上の会員が減少傾向にあると伺っており、人材不足の影響から、特に外で行う技能分野において、企業、個人、公共団体からの依頼作業に応じることができずお断りしている状況にあるとのことです。 労働人口減少が問題となっている現在、定年退職後の就業の確保に努めているシルバー人材センターの存在は、ますます重要になると思われるため、本市としてもシルバー人材センター入会説明会について広報よねざわに掲載するなどの協力を行っておりますが、今後も新たな会員確保に向け連携を図ってまいります。	
2-6	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略(案) 「基本目標3」	18 頁	基本目標3：ワークライフバランスについては、委員会等の女性登用率を目標値に挙げていますが、根拠が分かりません。これは例えば企業のホワイトカラーの女性の率を上回ると言う表現で良いのではないかと思います。率より	本総合戦略では、ワークライフバランスの実現に向けた指標として、「審議会・委員会等の女性登用率」を提示しています。誰もが仕事と家庭、子育て、地域活動等を両立していくためには、両立しやすい環境づ	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無		
	3-2 仕事と家庭、子育て、地域活動等を良質 できるワーク・ライフ・バランスの実現 3-3 将来を担う若者たちへの教育の充実と郷土愛の醸成		も学校教育や市民全体に対してアンコンシャスバイアスを取り除くと言う文化を醸成していくこと、これが最優先されるべきことだと思います。その啓蒙活動の実施や成果を目標値にすることも有効な手段です。 将来を担う若者について、魅力的な街として、例えばこども議会や企業の協力を得てこども取締役会など他地区では実績がありますがまだまだユニークな取組で実効性のあることです。行政 DX や AI については、外部人材と若者・学生のチームを活用、主に Z 世代に主導権を持ってもらうことなどが必要です。この知見や経験は、行政の中に充分ではありません。	くりや、男女の役割分担意識の解消、女性の活躍促進など男女共同参画の総合的な推進が必要であり、市施策を議論する場である審議会・委員会等において、幅広く女性の意見を聞く事が有効であると考えためです。本来であれば、男性と女性の数が均等となる50%を目指すところですが、実績（R4：28.9%）を踏まえ、市の目標値を、まずは国の成果目標値と合わせ、40%に設定し、女性登用を進めてまいります。 また、本市のアンコンシャスバイアスの解消に向けた取組としては、広報よねざわにアンコンシャスバイアス解消に向けた記事を掲載しているほか、年2回（6月と11月）に市役所1階市民ホールを会場にパネル展を実施し、男女共同参画やアンコンシャスバイアス解消に向けた市民意識の醸成を図っています。 さらに、今年度から2年間をかけて、本市の今後10年間の将来ビジョンを描く総合計画を策定することとしております。その過程において、高校生や大学生を対象としたアンケートやワークショップを実施し、将来を担う若者の行政運営への参画を図ってまいります。			
2-7	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案） 「基本目標3」 3-3 将来を担う若者たちへの教育の充実と郷土	18 頁	一つは若者を地元に残すため、小中学生に対する故郷教育である。下記の URL は山形県のホームページにある、「山形の暮らし」というものである。 https://yamagata-i-ju.jp/pref/number.pdf (概要は下記) <table><tr><td>仕事</td><td>高い正規雇用率と共稼ぎ率（全国2位）、短い通勤時間（東京の半分以下）、仕事からの</td></tr></table>	仕事	高い正規雇用率と共稼ぎ率（全国2位）、短い通勤時間（東京の半分以下）、仕事からの	お示しいただいた資料は、山形県移住交流ポータルサイトに掲載された、「数字でみる山形」という資料です。拝見すると、このサイトは、山形の概要（特徴や魅力）について端的にまとめられていますので、県の特徴を学ぶ際に利用できるものと考えます。すでに調べ学習等で閲覧している児童生徒も多いのではないかと推測します。	無
仕事	高い正規雇用率と共稼ぎ率（全国2位）、短い通勤時間（東京の半分以下）、仕事からの						

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容			回答	修正の 有無													
	愛の醸成		<table><tr><td colspan="2"></td><td>帰宅時間が早い、有給休暇取得率が高い、育児中の女性の就業率が高い</td></tr><tr><td colspan="2">子育て・教育</td><td>待機児童数「ゼロ」、安い教育費（東京の半分以下）、一人ひとりに丁寧に向き合え、地域の魅力や伝統に触れられる教育環境</td></tr><tr><td rowspan="3">暮らし</td><td>住まい</td><td>安い住宅購入費用（東京の 60%）、高い持ち家比率（75%）</td></tr><tr><td>安心・安全</td><td>低い犯罪率（全国 6 位）と高い検挙率（全国 1 位）</td></tr><tr><td>お金</td><td>東京と比べ、収入差は約 7 万円／月であるのに対し黒字額の差は約 2 万円</td></tr></table> 学校では、実際は、山形は非常に暮らしやすいということ、データを基に教育してほしい。こういった自分の故郷の良いところを知らない若者が多すぎる。 普段の生活やニュースで見る山形のイメージは負のイメージばかりで、若者の都会へのあこがれが募るばかりです。しかし一歩下がって冷静に山形の実態を都会と比べると、都会は良いことばかりではない。こういったことを小中学校の授業で教えてもらいたい。（親も含めた我々大人たちも責任はある） 働くところは探せば必ずある。すべて大学は都会の有名大学、企業は都会の一流企業という幻想をまずは捨てさせることが大切です。学校の先生もそういったことを意識し、教育してほしい。					帰宅時間が早い、有給休暇取得率が高い、育児中の女性の就業率が高い	子育て・教育		待機児童数「ゼロ」、安い教育費（東京の半分以下）、一人ひとりに丁寧に向き合え、地域の魅力や伝統に触れられる教育環境	暮らし	住まい	安い住宅購入費用（東京の 60%）、高い持ち家比率（75%）	安心・安全	低い犯罪率（全国 6 位）と高い検挙率（全国 1 位）	お金	東京と比べ、収入差は約 7 万円／月であるのに対し黒字額の差は約 2 万円	米沢に実際に住み、その良さを体感しているものの、都会へのあこがれは抱くものです。生活拠点を選択するには、比較する手段として複数のデータを基に考えることが重要です。小中学校では、そのデータの見方について学び、データを基に児童生徒が様々な情報を読み取りながら主体的に判断し、地域の特徴や良さに自ら気付くことができるように指導しています。 同時に小学校では地域の特徴や良さについて、実際に足を運んだり地域の方にインタビューをしたりしながら内容をまとめ、発表する等の学習を生活科や社会科、総合的な学習の時間等で行っております。この学習を通して、子どもたちは自分の住んでいる地域に対して理解を深め、地域の一員としての誇りを持つようになります。中学校ではその学習を踏まえて総合的な学習の時間に「米沢学」として広く米沢の歴史や産業、文化等について学び、郷土を理解し、今後の郷土の在り方を考え、将来積極的に米沢の魅力を発信していくことができるような生徒を育成しています。 また、本市では毎年 9 月に中学 2 年生全員を対象として 4 日間の職場体験学習「米沢チャレンジウィーク」を実施しております。4 日間はとても長い期間ではありますが、生徒が地元の人と共に働き、職業観を身に着ける貴重な機会と捉えております。「大きくなったらずいひうちに戻ってきてほしい」と声をかけていただいた生徒が体験を行った企業に実際に入社した事例もあります。地域の「もの、人」との主体的な	
		帰宅時間が早い、有給休暇取得率が高い、育児中の女性の就業率が高い																		
子育て・教育		待機児童数「ゼロ」、安い教育費（東京の半分以下）、一人ひとりに丁寧に向き合え、地域の魅力や伝統に触れられる教育環境																		
暮らし	住まい	安い住宅購入費用（東京の 60%）、高い持ち家比率（75%）																		
	安心・安全	低い犯罪率（全国 6 位）と高い検挙率（全国 1 位）																		
	お金	東京と比べ、収入差は約 7 万円／月であるのに対し黒字額の差は約 2 万円																		

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				かかわりを大切にし、自分の郷土の良さに働きかける等、実感を伴った体験活動に継続して取り組んでまいります。	
2-8	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）	-	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略に記載された KGI や KPI に金額など指標値が上げられているが、金額ベースのものは物価上昇について考慮されているのでしょうか。 何もしなくても物価上昇で達成できてしまう指標は意味があるのでしょうか。 KGI や KPI はどんな頻度で集計し見直しをかけていくのでしょうか。このような指標値を活かすには適切な頻度で観測し、進捗や難易度により方策を見直したり、或いは優先度を見直したり、予算付けを変えたりというリアクションをしながら、全体としての達成度を最適なものにすることが良い使い方です。その点から、指標値に難易度や予算付けの優先度などが何もないのも実現が懸念されます。戦略段階ではそこまで細かい議論ができないのであれば、毎年の予算化の際に KGI, KPI と共に難易度、達成度、予算化など具体的な行動資源を検討する機会を設けて頂きたいものです。	米沢市デジタル田園都市構想総合戦略で設定する額を含んだ KGI 及び KPI では、物価上昇を見込んだ設定にはしていません。 設定した指標の達成状況については、毎年検証することとしていますので、例えば物価上昇による達成が見込めるようであれば、指標の上方修正も検討してまいります。 また、毎年の検証に合わせてより高い費用対効果が得られるよう毎年度の事業内容を検証し、必要に応じて見直しを行いながら予算化し、事業を進めてまいります。	無

3 【その他全体に対する意見】

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
3-1	米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）	-	人口問題については全体の人口が減少するのであって、人口を地域の行政（市町村）の間で取り合うものではない。関係人口も有効なことだが、どのような関係に注力するかは地域ごとの特性があって、総花的にインバウンドや企業誘致などと言うことは具体的ではない。どの分野で他地域との関係を作って広域でデザインするか絞り込む必要がある。 そもそも人口が減ることがそんなに悪いことなのか、商業・工業・観光などを視点からはずしてみればもっと少ない人口が適正なのではないか、資源（税金）を無駄にしないために優先順位と絞り込みが必要で、どこの自治体でも思いつくようなことを百花繚乱に連ねても現実的ではなく、長期のまちづくり設計こそイノベーションであり現在の延長線上で決めるべきではない。 人口を相対的に増やしたいために様々な政策を実行する結果として、地域が良くなる、生産性が向上するなど良いことだが、人口増は結果であって目標ではない。適正人口はビジョンによっておおきく異なるのではないか。個人的には、製造や流通の企業誘致や、観光インバウンドが、地域にとって本当に価値があるのか、継続性や再現性があるのか、デメリットについても議論し尽くしたのか、など疑問に思っている。 行政と首長には、米沢市がどのような土地になると良いのか長期ビジョンを明確に持ってほしいし、ビジョン策定にはZ世代と女性など多様な人材による議論が必要。置賜地域内での連携、山形県内、首都圏、グローバルな視野で	ご意見のとおり、社会減対策は人口の奪い合いであり、日本全体で見れば、根本的には自然減対策となる少子化対策が重要であると思いますが、若年層の人口流出が少子化につながることから、交流人口の拡大や関係人口の創出の取組も重要であると認識しています。 米沢市人口ビジョンで人口減少がもたらす影響と課題を整理しておりますが、出生者数の減少や若者の市外流出といった人口の減少によって市民生活や地域経済、地方財政に大きな影響が出ると見通しています。 このような状況の中にあっても本市が将来にわたって持続可能なまちであるためには、人口減少を抑制し、将来的には自然動態及び社会動態の均衡を目指していく必要があるとともに、できる限り早く人口減少に対応した社会を作っていく必要があります。 本市では今後10年間の将来ビジョンを描く米沢市まちづくり総合計画を今年度より2年間で策定することとしております。策定に当たっては、高校生や大学生を対象としたアンケート調査を実施するほか、若者や女性、外部人材など様々な方からご意見を伺う予定としておりますので、持続可能な将来ビジョンを描けるよう、様々な方々から多くのご意見を取り入れ、総合計画の策定に取り組んでまいります。	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
			の連携を踏まえてデザインをすれば、おのずと米沢市の 30 年後の姿が描けるはず。例えば米沢市区域を一次産業の地域にするのか、住宅地にするのか、商業の地域にするのか、工業地帯にするのか、観光都市にするのか、知的産業にシフトするのかなどであり、方向を間違えないため、資源を集中するために十分な議論を尽くしてほしい。		
3-2	米沢市人口ビジョン（案）及び米沢市デジタル田園都市構想総合戦略（案）	-	2-(1) 地域ビジョン：人口減少によるコミュニティ機能や行政サービスの低下などが記されていますが、人口減少による直接的な影響と、人口減少に関係なく低下している事をひとまとめでくると、人口減少が悪いことのように見えてしまう。これでは住民の視野は狭くなってしまいます。 2-(2) 基本目標：関係人口は結果であって、目標にするべきではありません。どのような人に来てほしいかが大切で、地域のスタイルをどうするか、たとえば、軽井沢（外人、別荘、リゾート、避暑）、海士町（地域内循環）、東京 23 区（大都市機能、グローバル）、と大きな政策の違いがあります。米沢市がどういう田園都市であるべきか、それを支えるデジタルはどうあるべきかとデザインが異なり政策もまったく異なるはずです。 全般に言えることは、首都圏の副業人材（知見）を受け入れることで、様々な政策が加速することになるので、外部人材の活用を積極的に取り組んでほしいと思います。また、このようなプロジェクト（施策）は長期間にわたることであり、異動や組織変更でビジョンや意志が薄まることなく強いリーダーシップを持ち続けてほしいものです。	米沢市人口ビジョンでは、出生者数の減少や若者の市外流出といった人口の減少によって市民生活や地域経済、地方財政に与える一般的な影響について整理しています。 人口減少社会の中にあっても本市が将来にわたって持続可能なまちであるためには、人口減少を可能な限り抑制するとともに、できる限り早く人口減少に対応した社会を作っていく必要があります。 また、関係人口は、観光に来た「交流人口」や移住した「定住人口」に対して、特定の地域に継続的に多様な形でかかわる人のことを言います。米沢と居住地を行き来する人や米沢にルーツがある人、何らかの関わりがある人など、地域づくりの担い手や将来の定住人口にもつながることが期待されます。ふるさと納税で本市に寄附をしてくださる人も「関係人口」に位置付けられ、こういった方々を増やしていくことは本市にとって必要な取組であることから「米沢市の魅力発信による関係人口の創出拡大」に取り組んでまいります。 本市がどういう田園都市であるかは、米沢市デジタル田園都市構想総合戦略において、地域ビジョンを定	無

番号	項目 (編・章)	頁	意見の内容	回答	修正の 有無
				めており、本市の特性を生かし魅力ある地域づくりを行い「選ばれるまち」を目指すこととしています。 副業人材（外部人材）につきましては、これまでも活用してきたところですが、今後も必要に応じて活用してまいります。 なお、今年度より国や大学等の外部人材に政策アドバイザーを委嘱し、市政全般へのアドバイスをいただくほか、本年度より2か年かけて策定する10年を計画期間とする新たな米沢市まちづくり総合計画の策定においても、その知見をいただくこととしています。	